

創立10周年記念山行

通算山行NO	No. 261A	報告者	飯塚周一
年月日	2003年7月26日(土・曇りのち雨)	2万5千円	沼津・三島・
山名	富士山(海拔0m～本邦最高峰へ)	裾野・愛鷹山・印野	
何時かは挑戦したいと思っていた			
コースと タイム	千本浜 3:50—裾野市役所 6:30—須山神社 10:30(後藤・加藤は9:15～10:00)—弁当場 13:06—フジハラ平 14:00—水ヶ塚 15:07(後藤・加藤は14:00)—美人の湯—十里木キャンプ場(泊)		
標高差	沼津市・千本浜海岸0m～水ヶ塚1,443m＝約1443m		
参加者	後藤隆徳(56)・加藤秀子(54)・飯塚周一(61)・青山京子(48) サポーター・裾野麗峰山の会会員。		

まず、サポーターの皆さん、有難う御座いました。お陰様で完登出来ました。

私は仕事柄、土・日の山行はまず無理。漸く女房に許可を貰って参加。上旬にトムラウシに行って以来、気を抜かずに完登に向けて、ゴルフ場まで8kmのトレーニングコースをジョッグ、ボッカ、歩行をこなし、コンディションには万全を期した。

暑さ対策として、睡眠時間を少しでも長く摂ろうと、集合場所に近い、秋山副会長宅に泊めてもらい、世話になった。2時半、秋山会員に起こされ、集合場所の裾野市役所に急いだ。サポーターの皆さんが準備万端待っていてくれ、千本浜に移動。

駿河湾の海水を汲み、会長の宣誓で出発式を済ませスタート。この日の為に、用意をした「只今、千本浜から富士山頂登山中」「平和・自然保護・安全登山」の「幟(のぼり)旗」を背にした会長、加藤会員は速い、速い。10分も経たない中に、早足組と遅足組に、別れてしまった。

市内で河野さんの見送りを受けて、旧R246を、青山会員と後になり、先になりして、裾野市役所を目指して歩いた。青山会員と一緒に歩くのは、今回が初めて、先週の打ち合せ例会で、サポーターの責任者の佐野副会長から、少し情報を頂いていたので、失礼だったかもしれないが、青山会員の歩き振りを、観察させて貰った。

良い歩きをしている。このペースを崩さなければ、完登出来ると確信し、ゆっくりペースで市役所に着いた。ここで、サポーターの来生・関野会員の出迎え。茹でたてのモロコシが美味しかった。

須山街道に入り、青山会員が、膝に湿布を張り、私も左足首に湿布。アスファルトの道は足に堪える。まして私は、距離を気にして、軽いジョギングシューズを履いているので、余計に悪い。須山神社で登山靴に履き替えてからは、良かった。サポーターの皆さんに、小麦饅頭を土産にと、青山会員と割り勘で買って、其れから道草を食ってしま

い、横山・来生会員には、大変心配をお掛けしました。済みません。

その後、蕎麦屋に寄っていかうかと、相談をして行くと、行方不明で懲りたのか、横山会員が、がっちりガードしていて、蕎麦屋には入れませんでした。そんなこんなで、早足組みに1時間遅れて、須山神社着。

ここまで25k。勝又とし江会員の、オムスビと、新ショウガ美味しかった。ビールも少し。勝又、来生会員から「絶対登ってね」と、熱い声援を受けて、須山古道に入った。やはり登山道は優しい。足首、膝へのショックが柔らかい。ここからは、私が先に出てペースを作る。良く枝打ちされた林を抜けて、忠ちゃん牧場。ここから暫らく又アスファルト道。富士山資料館。サポート隊は良く、コースを研究してくれ、苦しい所にはチャンと居てくれ、あれこれと世話をして貰い、有り難い。

青山会員が湿布の張り替え。大分、足が張ってきた様子。来生会員にスパイラルテープの購入をお願いして明日に備える。山道に入りホトトギスの声を聞いて、野イチゴを食べて、花の良い香りをかいて、旧ゲートに出ると、またまた横山会員が待っていてくれた。嬉しいね。

「休むなら弁当場が良いよ。」と、アドバイスを貰って、弁当場で大休止。水がガンガン湧き出している。美味かった。山仕事の人達がこの水を目当てに、ここで弁当を食べたのが、この地名かな？ここから先は、彼方此方に井戸があり、水音がして、気持ち安らぐ。境沢から離れ、フジバラ平へ向う寸した2~3mの登り、青山会員が着いて来ない。待つと、足が攣ってしまったとの事。オーダーを変え、青山会員のペースで、水ガ塚を目指す。後1時間。頑張れ！雨が降り始めたが、木立に遮られて、傘をさすほどでもない。水源の井戸を縫って登ると、広い林道に出て、車の音が聞こえ、水ガ塚に、無事到着。本日の予定はここまで。ビールで乾杯。サポート隊を待ち、美人の湯に直行。ゆっくり汗を流し、疲れを癒した。

宿泊は、十里木キャンプ場。サポート隊の皆さんが、テントの支度から、食事の世話まで、ホントに有難う御座いました。スキ焼きも、トマトも、メロンも、ビールも最高でした。明日は絶対登頂！声援に答えるぞ！と早々に、シュラフに潜った。

その他（この項・後藤）

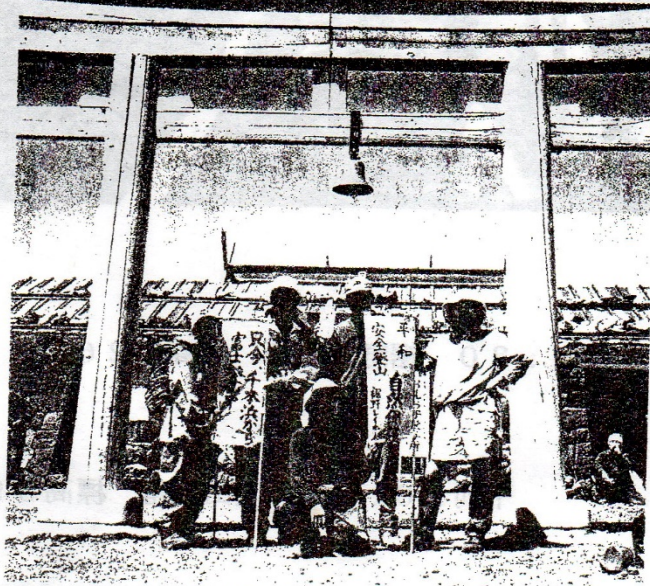
1. 海岸で海水をペットボトル汲むのは意外と難しい。ひも付きのバケツを用意すべきだった。結局、後藤は靴を脱ぎ海に入り汲んだ。正に海拔0mからスタート。
2. 出発式には佐野サポート隊長、峯岸夫妻、河合、鈴木和、横山が参加。
3. 飯塚・青山会員は計画外で元会員宅に寄り、一時、連絡が不通となった。
4. 須山の浅間神社は歴史を感じさせる立派な社。
5. 水ガ塚（2万5千図では西黒塚？）は名前通り、湧水の地。（知らなかった）
6. 十里木キャンプ場サポート隊は佐野、秋山和、横山、峯岸、河口千、水落、来生。

海拔ゼロメートルから富士山頂へ

裾野麗峰山の会が創立10周年記念登山
後藤さんら4人の会員が2日ばかりで

海拔ゼロメートルから富士山頂を
目指す裾野麗峰山の会の創立
十周年記念登山がさる二十八、
二十七日に行われた。
同会は県東部地区の登山愛
好者のグループ。現在会員は
六十五人で、年間を通じて軽

登山や山スキーから本格的な
登山まで幅広く活動している。
今回の記念登山は、会の創
立十周年を記念して企画され



富士山頂に到着した後藤さんたち

たもので、沼津市の千本浜か
ら日本の最高峰・富士山の山
頂まで高低差三千七百七十六
メートルを踏破するもの。代表の後

藤隆徳さん(56、長泉町)を
リーダーに飯塚周一さん(61、
修善寺町)、加藤泰子さん(54、
富士市)、青山京子さん(48、沼
津市)の四人編成の登山チー
ムと、キャンプの準備や車で
の送迎などのサポート隊十五
人が参加した。
後藤さんたち一行は、二十
六日午前四時に千本浜を出発
し、旧二四六号線を北上して
午前十時に中継点の須山浅間
神社へ。同所で昼食と休憩を
取った後、一行は須山口登山
歩道を上り午後二時に水ヶ塚
に到着。同夜は市営十里木
キャンプ場に泊まり、翌二十
七日午前四時に山頂を目指し
てスタート。六合目から富士
宮口登山道に入り、山頂には
正午に無事到達した。

山頂では、後藤さんたちが
千本浜でペットボトルに汲ん
できた海水を神社に奉納する
水帰式を行なった。帰路は御
殿場口登山道を下り、午後三
時にゴール地点の二合目に到
着した。天候にも恵まれ、ほほ
予定通りの行程だった。

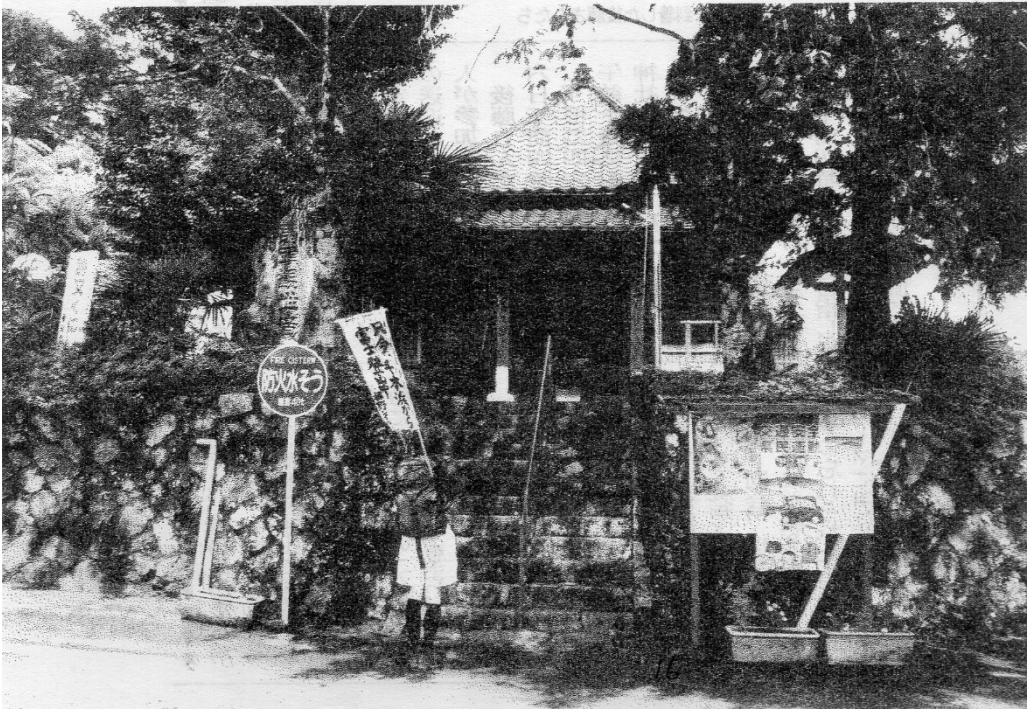
後藤さんは「今回の記念登
山は平和や自然保護、安全登
山を祈願して企画した。山登
りはさほど苦ではなかったが、
平地を歩くのが思いのほか大
変だったと目焼けた顔をほ
ころばせて感想を語っていた。
なお、同会では今回の記念
登山の他にも記念山行として
「伊豆の忘れられた山を歩く」
をテーマに伊豆の山々を歩い
ている。問合せは後藤さん ☎9
86-6075へ。」

裾野
ジャーナル



午前6:30 裾野市役所 標高126m

午前10:00 須山集落 標高591m



只今千本松 富士登山中



午前11:15 富士山資料館 標高880m

午前12:00 旧料金所 標高980m



会山行報告書・10周年記念登山

通算山行NO	No. 261a	報告者	後藤 隆徳
年月日	2003年7月27日(日・雨のち晴)	二万五千円＝印野・天母	
山名	富士山(3776m)	山・富士山・須走	
体力度＝6 技術度＝3 藪漕＝無い 道標＝有る 展望＝最高の展望だった			
かつてない厳しい山だった			
コースと タイム	起床2:30—キャンプ場発(車)3:30—水ガ塚4:00—御殿庭6:30—六合目・雲海荘7:10～7:30—剣ガ峰11:55～13:30—御殿場口・大石茶屋15:50—美人の湯(打ち上げ)		
標高差	水ガ塚＝約1440m～剣ガ峰3776m＝約2336m		
参加者	CL 後藤隆徳(56)＝海から富士山頂に上るのは生涯一度でしょう?!。 飯塚周一(61)＝サポート、ありがとう。良い記念が出来ました。 加藤秀子(54)＝生まれて初めて山で「ゲボツツ」しちゃった。 青山京子(48)＝サポーターの皆さんに感謝。頂上に着いて幸せでした。 水ガ塚から参加者＝長岡浩一・河合依代		

昨夜は夕食後、テントで峯岸会員と少し飲んだ。峯岸会員が帰りすぐ寝た。5分後、長岡会員が来たらしいが全く記憶が無い。相当、疲れていたのだろう。

それでも2時半には起きた。朝食は秋山和副会長が2時に起き、すでに作ってくれた。ありがたい。今回ほどサポート隊のありがた身を感じた山は、麗峰始まって以来だ。

朝食は昨夜の「スキヤキ風煮込み」に餅を入れたもの。流動食的で疲れが十分癒えない体に丁度良かった。5個頂いた。すぐ「大」を済ませ出発。

峯岸会員の運転する私のワゴンで水ガ塚に向かう。天気は霧シオン。峯岸会員の激励を受け歩き出す。暗い上、雨っぽい天気。記念登山でなければ帰っていたかもしれない。今日はここから長岡・河合会員も参加。

ランプに導かれフラフラ上る。最悪の体調だ。左尻の後ろがギリギリする。油が切れた蝶番(ちょうつがい)の様だ。加藤は膝の裏が痛いと言う。昨日のダメージはかなり大きかった。筋肉にバネが感じられなかった。一步一步が「ドスドス」っていう感じ。騙し騙し行く。

御殿庭下では綺麗なベニバナイチャクソウに慰められた。紫色のママの花みたいのも良かった。宝永から六合目に向かう。

六合の「雲海荘」で休憩。ここは昨年、富士山フォーラムで世話になった。オジサン・オバサンとも、気持ちよい人だ。腹が減ったので長岡と「ニンニク・ラ

ーメン」を食う。加藤は「うどん」。生のニンニクがガッポリ入り、いやはや凄
い凄。パワーを頂きました。主人は私たちの登山に意気を感じたのか、一人7
00円の料金を取らなかった。

六合からは雑踏の中だ。凄い人である。加藤と私は例の「只今、千本浜から富
士山頂登山中」「平和、自然保護、安全登山」の幟旗を持っている。

「只今・・・」の幟旗を見て多くの人が、激励・声援を送ってくれる。その度
に胸がジンジンしてしまった・・・。嬉しかった。有り難かった。そんなエール
があれば元気が出るというものだ。

途中、水ガ塚で待機の佐野サポート隊長からも激励の言葉を無線で頂く。今回
は佐野副会長を始め、皆には本当に世話になった。そんなこともあり、思わず感
激してしまった。

途中、以前「さつきの空ふれ愛ハイク」に参加した裾野の女性がいた。その方
は携帯で写真を撮り、すぐインターネットに掲載してくれた。九合五勺では、退
会したY君にも会った。

天気は八合以上から快晴だった。富士山もなかなか憎い演出をする。富士宮頂
上の鳥居をくぐり、登山はいよいよクライマックスに達した。ゆっくり、ゆっく
り剣ガ峰に向かう。ここまで長かった。蟻の如く、正に一歩一歩の登山だった。
剣ガ峰最後の急登りは思わず「手摺り」を掴んでしまった。

そして11時55分、無風快晴の頂上に遂に立った。遥か千本浜から約18時
間掛かった。やっぱり半端ではなかった。「富士山を二度上る馬鹿は、やはり海
からの話」と理解した。全員で熱い感動の抱擁。最近、こんな感動な山は久しく
無かったな。

20分ほど遅れ、飯塚・青山・河合会員も到着。一番心配された青山会員は良
くやった。抱擁し感動・頑張りを共有した。飯塚会員には随分、世話をして貰っ
た。測候所のラウンジで長々と横になり存分に休憩した。

下山途中、三島岳付近で何処かの「舞姫」がいた。横笛を奏でる女性もいた。
声を掛けると「平和・自然保護・安全登山」の祈願を理解してくれ、一緒にコノ
ハナノサクヤヒメノミコトに捧げてくれた。頂上の浅間神社にも赴き、千本浜の
「海水」を奉納した。神官は気持ちよく対応してくれた。

それらは、決して安易な気持ちで祈願した訳ではない。千日回峰の如く、体を
張っての行為だからこそ重みがある。時に人間は理屈以上に「行動」がものをい
うものである。今後もそんな姿勢を貫きたいものだ。

砂走りをブツ飛ばし、皆が待つ大石茶屋に向かう。山には再び霧が掛かる。考
えてみたら昨日・今日といい、涼しくて最高に上り易かった。今回は最初から最
後までラッキーだった。皆さん、ありがとう。

雲海荘



富士宮前。富士山から見た景色が素晴らしい。雲海荘は、富士山の麓にあり、標高2496m。八合目 標高3231m。





頂上 標高3776m

御殿場口・大石茶屋 標高1516m



10周年記念山行 富士登山サポート隊の記録

役割と参加者

総括 佐野雅道
設営と輸送 横山寿幸・峰岸輝雄・鈴木和子
食料調達と調理 秋山和子・河口千代子・水落 京
(一部輸送を含む) 勝又とし江・来生博子

1. 良かったこと

- ① 登山隊全員が頂上に揃った。
- ② B隊の全員が時間調整をしながら大石茶屋で登山隊を迎えた。
- ③ 幕営地を公設のキャンプ場としたこと。
 - イ. 調理場が整備され、水・火の扱いが楽にできた。
 - ロ. 屋根つきの食事場所が確保できた。
 - ハ. 当日は雨模様で片付けも楽にできた。
- ④ 食事も水分の多い物が疲れた体に効果的(野菜たっぷりのすき焼き風煮)
- ⑤ 夕食の食材を翌朝活用したことで無駄がでなかった。
ゴミを出さず自然にやさしくが実行できた。

2. 反省事項

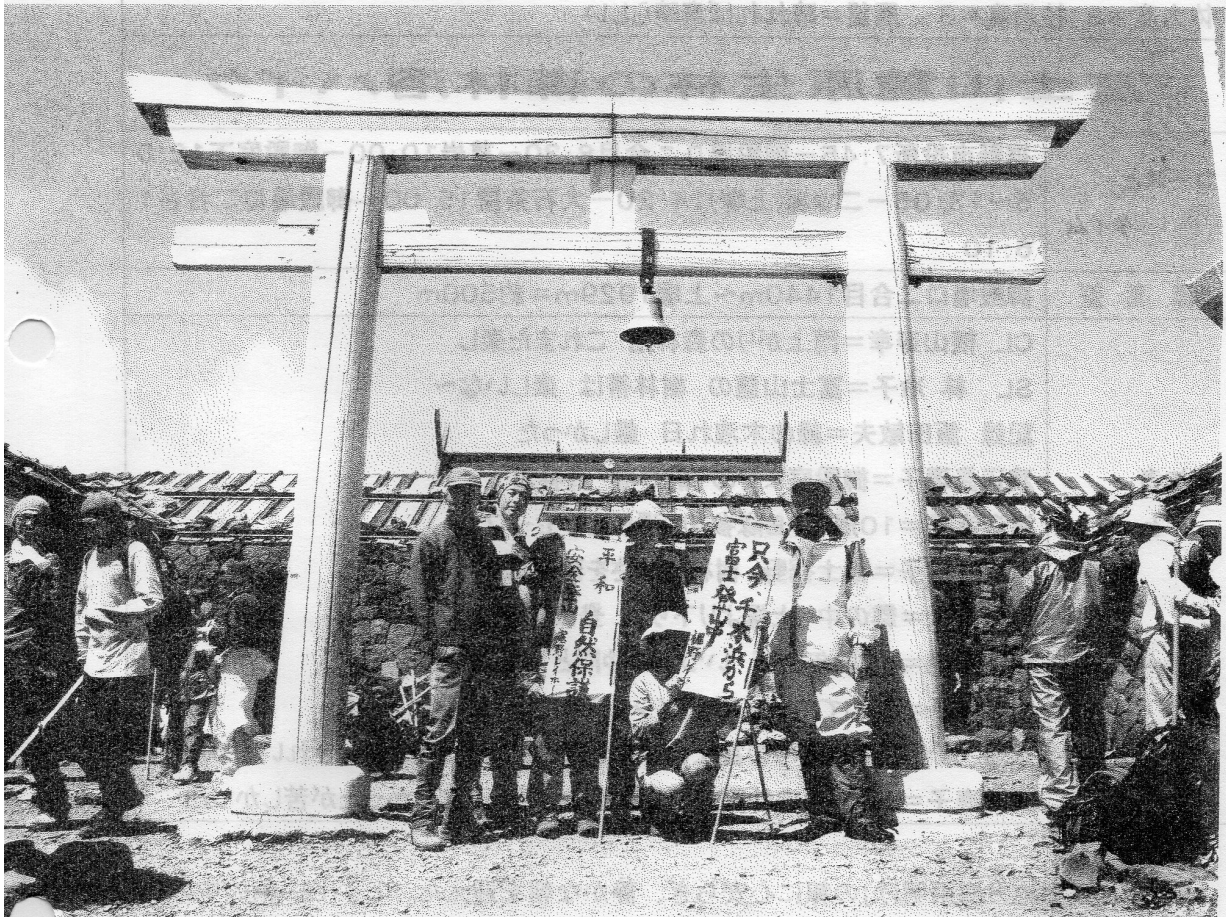
- ① 想定外の行動に対応できなかった。一時登山隊の一部と連絡が取れなくなり改めて危機管理(大げさか)の重要性を痛感。
事前の連絡方法の確認・通信機器の確認
- ② タイムスケジュールの詳細な詰め。
- ③ 救急薬品の不足から調達に走る。
- ④ 直前までサポート隊の参加者に具体的な仕事を明らかにできず迷惑をかけた。

3. その他

- ① 記念山行について
会員の半数以上が参加できる方法・山域を検討。
- ② 記念行事について
11月の文化展・2月のレセプションが控えている。
皆さんの参加をお待ちします。

(文責 佐野)

夫姓 田源	昔古時	8182 04	登山行山行NO
祝日=関千五式二	(外朝寺と寺と島・雨小)日27月7年2008		日 月 年
	(m)929(1)翠ニ・山士富		山 岳

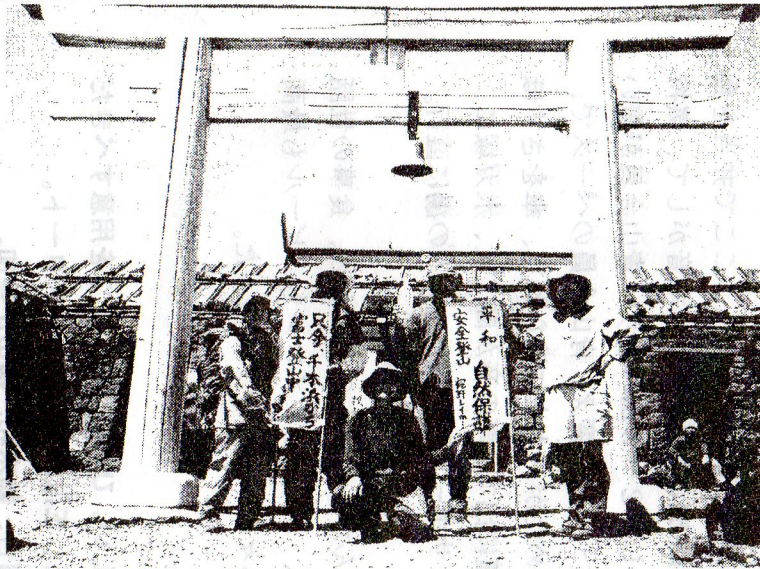


富士山頂上 標高3776m

千本浜から富士山へ

裾野 麗峰山の会 10周年記念の登山

県東部の登山愛好者グループ「裾野麗峰山の会」(後藤隆徳代表)は二十六、二十七の両日、沼津市の千本浜から歩いて富士山頂を目指す十周年記念登山を行った。



千本浜から歩いて富士山頂に到達したメンバー
 〓富士山頂

同会の会員は、五十代を中心に登山の初心者からベテランまで六十四人。会として毎月二回の山行を実施しているが、記念事業は「人がやっていないことで、節目の年

に、さわしい厳しい登山に挑戦しよう」と、富士山の標高三七七六メートルの富士山をゼロメートルの千本浜から体験する登山を企画した。

後藤代表をはじめ、会員四人が参加。ほかにも「サポート隊」として十五人が登山の準備などにかかわった。一行は二十六日午前四時に千本浜をスタート。旧国道246号を歩いて裾野の十里木キャンプ場に宿泊した。

翌朝四時に出発し、富士山頂を目指した。

登山に参加した富士市の加藤秀子さん(五四)は「富士山より、アスファルトを歩く方が体に響いた」と振り返る。後藤代表は「千本浜から富士登山中」と書いたのぼり旗を持っていたため、多くの人からエールをもらい励みになった」と話す。

同会は昨年から、記念山行「伊豆の忘れられた山を歩く」も実施している。後藤代表は「誰もが参加できる企画を通じて、底辺拡大を図りたい」と話した。

静岡新聞